

# 紡錘車に書かれた線刻文字

井 上 唯 雄

県内の発掘調査によって出土する紡錘車は多野郡吉井町の矢田遺跡のように100個以上も集中出土もあって急激に増加し、1100個を越えるまでになった。この紡錘車について精力的に収集・検討を進める中沢悟は、その時期的な形態変化や出土数、集落の中における所有形態と社会的背景など注目すべき成果をあげている（専修考古6号 紡錘車の基礎研究、矢田遺跡VII 1997）。これらの中に特に線刻された文字をもつものがあるが、これについては井上唯雄が10年以前に、その分布や文字内容を取り上げ、その性格について論じている経緯がある（古代学研究115号 1987）。

その後、出土数も増加したこともあり、その集成とともに再度線刻文字のもつ意味についてふれてみよう。今回取り上げた資料は37点であるが、不確実なものを含めると50点ちかくなることになる。特に、今回の集成に留意した点は、地域的な分布傾向を探れるように配慮したこと、文字の意味の把握に不可欠なものを中心とすることを念頭においた。

まず取り上げた37点の時期的な点をみると以下の通りである。

時 期	点 数	世紀別
8世紀以前	4	4
8世紀前半	3	8
8世紀後半	5	
9世紀前半	6	21
9世紀後半	15	
10世紀前半	2	2
10世紀後半	0	
11世紀前半	2	2

これでみるとまず文字の普及度もあって8世紀以前のものは少数で、それも7世紀のものが多いといえる。それに対し8世紀に入ると急激に増え、全体の20%に達する。

さらに9世紀に入ると60%近くの出土数である。特に9世紀後半は全体の40%に及ぶ数が出土している。

10世紀以降は極端に減少し、それぞれ2個ずつである。この結果は文字内容の示す内容とともにそのもつ性格にたいし、大きな示唆を与えてくれる。すなわち文字を線刻した紡錘車は律令制度と無縁ではないことを示している。

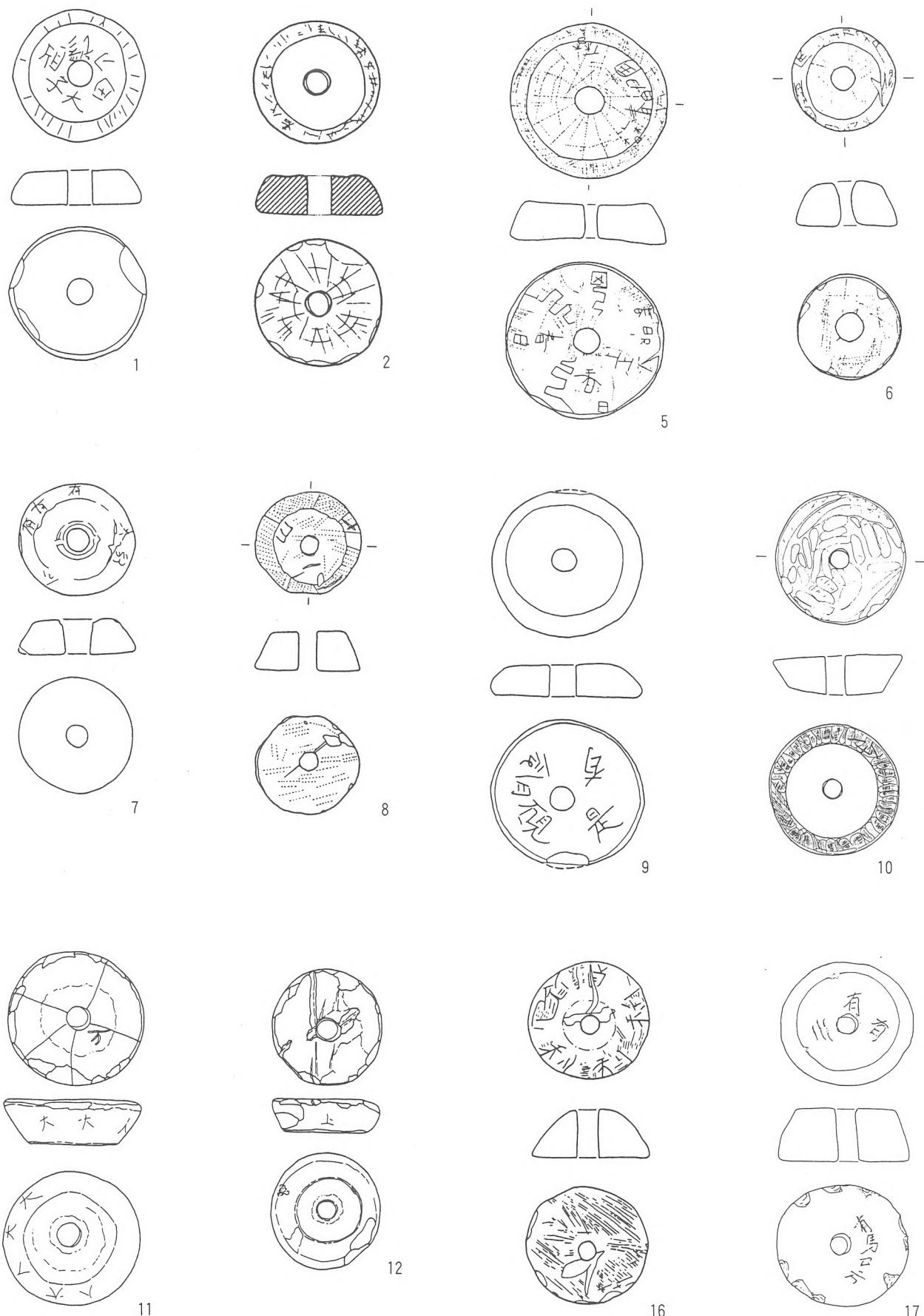
さらにそれを出土する遺跡と遺構についてみるとほとんどが律令期の地域における中核的な集落であり、堅穴住居から出土する。このことは文字線刻の紡錘車を保持していた階層を示すものであり一般庶民により扱われていたことを示している。

紡錘車の機能は糸を紡ぐ際、回転により糸に継ぎをかけるため糸巻棒にさし、その回転を助ける弾み車の役目を果たすことはよく知られている。紡ぐ対象になった糸は生糸が中心であったとみられる。そもそも、日本の養蚕の起源については『新撰姓氏録』太秦公宿禰条などから雄略朝のころとされている。また、養蚕、機織説話に関しては秦、百濟人などの渡来人との関連を示すものが多く、現実を反映したものと受け止められている。

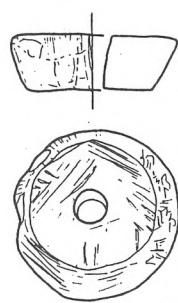
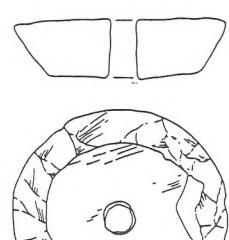
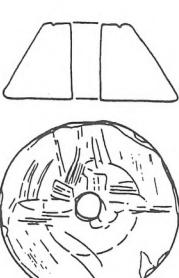
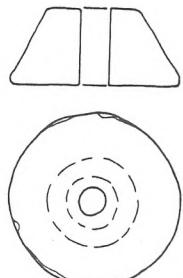
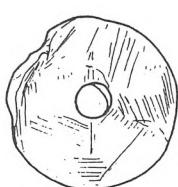
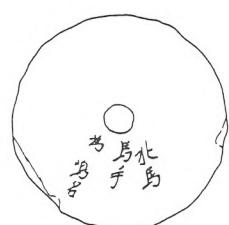
従来の考古学的知見によれば渡来人の集中居住する地域に新たに多胡郡を設けたり、渡来人の集団に賜姓した事例を上げるまでもなく、群馬県内にも多くの渡来人の所在がうかがわれる。こうした人々が養蚕・製糸・機織など専門的技術を要求される分野で活躍したことは容易に想定される所である。

県内出土の線刻文字をもつ紡錘車

No.	遺 跡 名	所 在 地	材 質	大 径 小 径 高 さ	釈 文	時 期
1	大久保 A	前橋市荒子町	滑 石	4.8 3.4 1.2	「大田部訛岡子」	9前
2	荒子小 II・III	"	滑 石	4.6 3.5 1.4	「□□若代□□去勢女」	8後
3	"	"	?	4.5 3.0 1.5	「下」	8後
4	鶴 谷 II	前橋市鶴谷町	滑 石	4.3 2.8 1.6	「矢田」	8中
5	芳賀東部団地	前橋市鳥取町	蛇紋岩	5.6 4.5 1.4	「春日部国麿」	9後
6	"	"	蛇紋岩	3.7 2.7 1.5	「勢多郡楊 五百□都□」	9後
7	"	"	蛇紋岩	4.1 3.0 1.2	「有」3「合」「木」	9後
8	"	"	?	3.8 2.6 1.4	「山」	9後
9	上 西 原	前橋市荒子町	滑 石	5.4 4.1 1.2	「是硯月衾有」	9後
10	荒 砥 天ノ宮	前橋市二之宮町	滑 石	4.7 3.4 1.4	「八十」	?
11	熊 野 堂 II	高崎市大八木町	蛇紋岩	4.8 3.1 1.6	「万」「大」	9後
12	"	"	蛇紋岩	4.1 3.0 1.2	「上」	9後
13	万 福 寺 II	高崎市倉賀野町	蛇紋岩	4.3 2.5 1.2	「ス」	?
14	生 原 佐 藤	群馬郡箕郷町	泥 岩	5.3 3.5 1.8	「田口」	9中
15	飯 盛 L	"	滑 石	5.4 3.5 1.5	「天□□」	9中
16	見 眼	勢多郡富士見村	滑 石	4.2 1.8 1.8	「見」「利」各3	10中
17	有 馬 条 里	渋川市有馬	滑 石	4.6 3.3 1.8	「有」3「有馬公方」	9前
18	熊 野 ・ 辺 玉	北群馬郡吉岡町	滑 石	4.1 2.9 1.5	「井」	6後
19	矢 田	多野郡吉井町	蛇紋岩	4.6 2.3 1.9	「八田郷」3「家郷」	11前
20	"	"	蛇紋岩	4.7 2.3 1.9	「八田郷」3「大」	11前
21	"	"	蛇紋岩	7.1 5.0 1.8	「牝馬馬手為嶋名」	8後
22	"	"	蛇紋岩	5.1 3.1 1.6	「十」「田」	8前
23	"	"	蛇紋岩	4.6 3.4 1.4	「物部郷長」	10前
24	"	"	滑 石	5.2 3.6 1.7	「八」「八田」「物部」	9後
25	"	"	滑 石	5.0 2.7 1.8	「八田」	8後
26	"	"	滑 石	5.4 5.2 1.0	「一八」4	8前
27	黒 熊 KK 4	"	蛇紋岩	7.8 6.4 2.0	「下家」2「下家轉」	7前
28	戸 神 諏 訪	沼田市町田町	蛇紋岩	4.8 4.1 1.4	「十」	9後
29	後 田	利根郡月夜野町	滑 石	5.5 3.7 1.4	「掠」4	8後
30	書 上 上 原 之 城	伊勢崎市三和町	蛇紋岩	5.1 3.6 1.5	「福美□」	9後
31	上 植 木 光 仙 坊	伊勢崎市上植木	蛇紋岩	5.2 3.6 1.5	「王」	9後
32	"	"	蛇紋岩	5.0 3.6 1.5	「天」「矢」	9後
33	十 三 宝 塚	佐波郡境町	滑 石	3.8 2.6 1.6	「上毛野朝臣寶富根」	9後
34	稻 荷 宮	太田市台之郷	土 製	5.7 4.1 1.4	「法師花」	9中
35	尾島工業団地	新田郡尾島町	滑 石	5.5 4.0 1.6	矢田衆人即□矢田公子家守	9中
36	台	新田郡新田町	蛇紋岩	5.0 3.4 1.5	「甲」「人」「□中国」	9後
37	中屋敷中村田	新田郡新田町	土 製	?	「物部□」	9後



県内出土の線刻紡錘車(1)

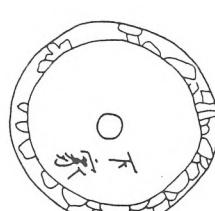
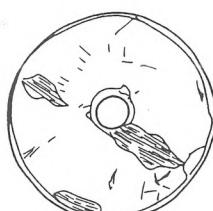
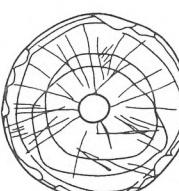
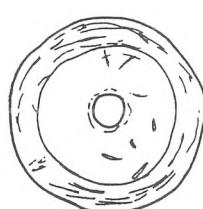


19

20

21

23

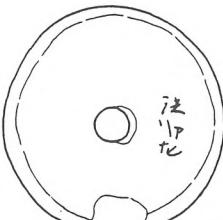
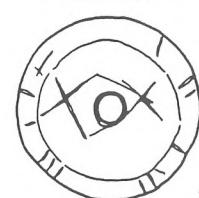
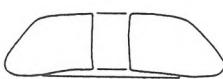
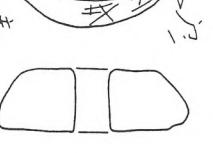
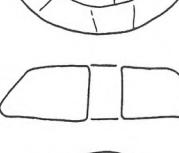
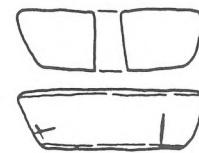
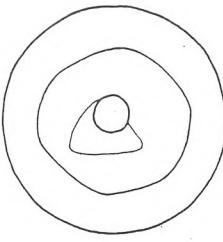
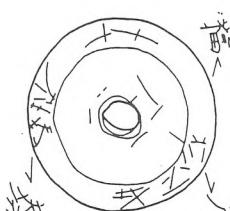
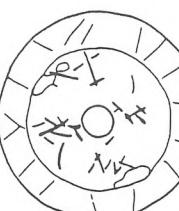
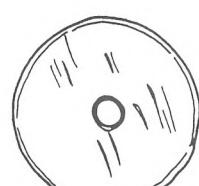


24

25

26

27



28

29

30

34

県内出土の線刻紡錘車(2)

線刻文字をもつ紡錘車の出土を分布的にみると、県内の西毛・北毛の山間部を除いてくまなく出土している。特に山麓部の高燥な台地部を中心に色濃い分布が認められ、最近まで養蚕の盛んな地域とオーバーラップしていることに注目したい。養蚕県群馬の素地は早く古代にさかのぼれることは明白である。火山灰の堆積した台地は養蚕に最適の地であるとみた古代人の慧眼をうかがえる。

ただ、紡錘車を出土するということと線刻文字をもつこととは同義ではない。関口功一らが指摘するよう、古代布生産に関して、一住居における複数所有という形態の存在、そこから想定される調庸物、交易雑物、自家消費などその目的に応じた対応があり、水田可耕地の不足しがちな地域の生産活動と深くかかわっていたことも想定される。(群馬の考古学 古代布生産と在地社会 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988)

内容のうかがえる複数文字により表現されたものから線刻文字の示すものをみると、地名と人名に関するものが中心であることに異論はないであろう。しかし、その詳細を分析すると必ずしも一義的に律せられるものではない。それらをあえて分類すると次のようになる。

区分	事例	備考
郡名+姓+名	「勢多郡楊□五百□都□」	「楊」は墨書き土器にあり 姓
郷名	「矢田」「八田」「八」「一八」 「家郷」「大」	多胡郡の郷名 大家郷か
郷名+名	「有馬公方」「有」	有馬郷の公方か
品部名名代子代名 +人名	「大田部」+人名 「春日部」+「国曇」 「矢田」「矢」「矢田」+「家人」 「物部」 「□□」+「若代・・」	春日部 矢田部
賜姓名+人名	「上毛野朝臣」+「寶富根」	上毛野佐位朝臣
職関係+人名	「物部」+「郷長」「法師」+「花」 「馬手」+「為嶋名」	
人名	「福美」	墨書き土器に「福」多くあり
その他	単独文字 意味不明のもの 有・合・木・万・大・上・天□□・見 下家轉・掠・王・天・甲・人・□中国・ 井は井出郷か 土は土師郷か 利は利刈か	地域的に想定も可能か

これらは主観的に分類された危惧は免れないが、少なくとも郡郷名、人名に関するものが強く意識されていることは否めない。そこで思い出されるのが調布として正倉院に納められた古裂銘の書き方である。それには布を納めた国・郡・里(郷)・戸主の姓名・年月日などを注記し、それに国印を押すことになっていた。(養老賦役令)

それと共にした内容が認められる線刻文字をもった紡錘車は調庸布の生産と関連したものと見られないだろうか。そこで現在正倉院に保管されている群馬県関係の調布の銘文を拾うと次のとおりである。

#### 揩布屏風袋

上野国碓氷郡飽馬郷戸主□□□	龍麻呂庸布一段	年号欠く
上野国多胡郡山部郷戸主秦人	高麻呂庸布一段	年号欠く
上野国佐位郡佐位郷戸主桧前部黒麻呂庸布一段		天平感宝1年(749)

#### 白 布

上野国多古郡八口郷上毛野朝臣甥調布一端	天平13年(741)
上野国綠野郡小野郷戸主額田部君馬稻調布一端	年号欠く
上野国群馬郡鳴名郷戸主鳴名部馬手戸□部真辛人調布一端	天平18年(746)

#### 黄 施

上野国新田郡淡甘郷戸主矢田部根麻呂調黄一匹	天平勝宝4年(752)
-----------------------	-------------

他に上野国印のあるもの2点(天平14年・天平勝宝□年)あり

(正倉院寶物銘文集成 吉川弘文館 1978)

これらの地名と線刻文字を伴う紡錘車の出土地はかなり高い相関関係を示していると見ることができる。特に矢田遺跡出土の「牝馬馬手為鳴名」と上の群馬郡調布の人名とはかなりの関連をうかがわせる。

今まで見て来たように線刻文字を伴う紡錘車は

- (1) 書かれている内容に郡郷名・品部名・人名などがあり、調布の銘文と共に通する要素がある。
- (2) 調布の貢納地域と出土遺跡の地域的相関関係がうかがえる。
- (3) 他の無銘のものにくらべて作りもよく、ていねいに扱われているという(中沢)。
- (4) 直接 布生産とかかわりない文字もある。(新田工業団地例は矢田衆人の死を矢田公子家守が弔ったの意、上西原例は意味が全く不明)

以上 線刻文字を伴う紡錘車についてみてきたが、調布生産とかかわっている可能性を指摘するに止まつた結果になった。賦役令で細かく規定される調布の生産には各段階で統制管理が行われた可能性がある。調布生産の任に当たる郷戸主は厳しい管理を受ける中で紡錘車も例外ではなく、場合によっては官から支給されるような扱いが行われたのかもしれない。そのため他の紡錘車とは区別する必要が有ったのかもしれない。

## 参考文献

### 前橋市 勢多郡

- |     |                     |                       |
|-----|---------------------|-----------------------|
| 1   | 昭和59年度荒砥北部遺跡群発掘調査概報 | 群馬県教育委員会 1984         |
| 2・3 | 荒子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡        | 山武考古学研究所 1992         |
| 4   | 鶴谷遺跡群Ⅱ              | 前橋市教育委員会 1982         |
| 5~8 | 芳賀東部団地遺跡Ⅱ           | 前橋市教育委員会 1988         |
| 9   | 上西原・向原・谷津           | 群馬県教育委員会 1986         |
| 10  | 荒砥天ノ宮遺跡             | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 |
| 16  | 富士見遺跡群 田中田・窪谷戸・見眼遺跡 | 富士見村教育委員会 1986        |

### 高崎市 群馬郡

- |       |               |                       |
|-------|---------------|-----------------------|
| 11~12 | 熊野堂遺跡Ⅱ        | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 |
| 13    | 倉賀野万福寺Ⅱ遺跡     | 高崎市教育委員会 1994         |
| 14    | 佐藤・生原遺跡発掘調査報告 | 箕郷町教育委員会              |
| 15    | 飯盛L遺跡         | 箕郷町教育委員会              |

### 渋川市 北群馬郡

- |    |         |                       |
|----|---------|-----------------------|
| 17 | 有馬条里Ⅱ   | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 |
| 18 | 熊野・辺玉遺跡 | 吉岡町教育委員会 1995         |

### 多野郡

- |       |               |                       |
|-------|---------------|-----------------------|
| 19~22 | 矢田遺跡1         | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 |
| 23    | 矢田遺跡2         | " 1991                |
| 24    | 矢田遺跡3         | " 1992                |
| 25・26 | 矢田遺跡7         | " 1997                |
| 27    | 黒熊遺跡群発掘調査報告書3 | 吉井町教育委員会 1984         |

### 沼田市 利根郡

- |    |        |                       |
|----|--------|-----------------------|
| 28 | 戸神諏訪遺跡 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 |
| 29 | 後田遺跡   | " 1992                |

### 伊勢崎市 佐波郡

- |       |          |                       |
|-------|----------|-----------------------|
| 30    | 書上上原之城遺跡 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 |
| 31~32 | 上植木光仙坊遺跡 | " 1989                |
| 33    | 十三宝塚遺跡   | " 1994                |

### 太田市 新田郡

- |    |                                   |               |
|----|-----------------------------------|---------------|
| 34 | 稻荷宮遺跡                             | 群馬県教育委員会 1987 |
| 35 | 尾島工業団地遺跡 (群馬県史通史編2 群馬県 1992)      |               |
| 36 | 台遺跡                               | 群馬県教育委員会 1990 |
| 37 | 中屋敷・中村田遺跡 (群馬の遺跡2 群馬県立歴史博物館 1998) |               |